

学館生活スナップ



東桜キャンプ(庄内・遊佐)



クラスマッチ



野球応援



東桜キャンプ(月山ブナの森)



国際英語プレゼンテーション大会START



沖縄・西表 フィールドワーク



東桜祭(中学校)



東桜祭(高校)



職場体験

創立10周年 PTA記念講演

演題 「科学のメガネをかけると世界は変わる ～ 過去・現代・未来～」

物理学者
東京理科大学理学部教授 **山本 貴博氏**

1975年大分県生まれ。1998年、東京理科大学理学部卒業。2003年、東京理科大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士(理学)を取得。科学技術振興事業団の研究員、東京大学の助教などを歴任し、現在は東京理科大学 教授(学長特任補佐)、日本物理学会 理事(会長特任補佐)、日本表面真空学会 フェロー/フラーレン・ナノチューブ・グラフェン学会 幹事。専門分野は理論物理学(物性理論)。主な著作としては「基礎からの量子力学」「基礎からの物理学」「量子力学工学へのアプローチ」など。最近では、理論物理学を駆使して「体温を利用して発電するカーボンナノチューブ」の研究などに取り組んでいる。またテレビ番組「世界ふしぎ発見!」や雑誌「Newton」などのメディアを通して、サイエンスの魅力を世間に発信している。



山形県立東桜学館中学校・高等学校 創立10周年記念式典



日 時 令和7年10月17日(金) 13時より
会 場 本校北アリーナ

式 次 第

開 式 の こ と ば

国 歌 斉 唱

式 辞

来 賓 祝 辞

来 賓 紹 介

生 徒 代 表 の こ と ば

校 歌 斉 唱

閉 式 の こ と ば

校名について

県内初の併設型中高一貫教育校を設置する東根市は、桜桃（さくらんぼ）の生産量日本一であることから、「東」と「桜」の二文字を組み合わせ、さらに「学館」で中高一貫の学びを表現しました。「東」は日の出の方角であり、新たな歴史の始まりを意味し、「桜」は日本を代表する花であります。人間力に満ちあふれ、桜のように誰からも愛されながら、これからの新しい時代を切り拓いていく人を育てる学び舎となるよう命名しました。

校章の由来



東桜学館の校名にちなみ、桜の花をモチーフとし、おしべと花びらで中高一貫教育校における子どもたちの成長を表現しました。ふるさと山形で学び、将来は日本や世界を舞台に、一人一人がそれぞれのステージで花開く姿をイメージ化しました。

基本理念

21世紀は、新しい知識や技術が、社会のあらゆる領域の基盤として飛躍的に重要性を増す知識基盤社会である。そして、知識や技術は日々進展するとともに、グローバル化が一層進むなど、社会は大きく変化し続けており、未来を担う子どもたちは、この時代を主体的に生きる力を身につける必要がある。そのような力を次の3つの視点から捉えることとし、これを本校の基本理念とする。

高 い 志

自らの価値観を確立し、地域社会及び国際社会の発展に貢献するという崇高な目標を掲げ、その実現に向けて挑戦し続けるたくましい意志

創造的知性

豊かな感性と探究心を持って自ら課題を発見し、幅広い知識や技能を活用して論理的に解決の道筋を考え、他者とのコミュニケーション及び協働を通じて解決を図る能力

豊かな人間性

健やかな心身を育み、自他を尊重し、協力し合うとともに、郷土を愛し、社会の平和と発展を願う心

校 歌

1 大地うるおす 雫を集めて
流れる水面は 雲を映す
光と希望と 愛を力に
いつか優しい 花になりたい

2 はらかな緑 神々の息吹
命を育む このふるさと
夜明けのしじまを かけぬけながら
未来はばたく 風になりたい

3 われらの友よ 輝ける友よ
涙をこらえて 歩いた道
永遠の誓い 胸にだきよせ
つばさ広げて 今 飛びたとう

作 詞 小 川 糸 氏

山形県生まれ、東京都在住の小説家。
2008年に発表した小説『食堂かたつむり』が映画化され、ベストセラーに。主な著書に、『喋々囁々』、『ファミリーツリー』、『リボン』、『にじいろガーデン』、ドラマ化された『つるかめ助産院』などがある。
2011年、『食堂かたつむり』で、イタリアのパンカレッラ賞を、2013年にフランスのウジェニー・ブラジエ小説賞をそれぞれ受賞した。
浜田省吾氏らとともに音楽ユニットを結成し、春嵐の名で作詞も手掛けている。

作 曲 八 木 澤 教 司 氏

岩手県生まれ、千葉県在住の作曲家。
代表作は海外でも幅広く親しまれ、世界最高峰と呼ばれるギャルド・レピュブリケヌ吹奏楽団によって新作が初演された数少ない邦人作曲家。
国民体育大会、全国高校総体の音楽を数多く担当している他、合唱曲「あすという日が」は紅白歌合戦でも歌われている。“困難を乗り越えれば必ず希望のある未来が待っている”といったテーマを用いた作風はジャンルを超えて世界中の人々を勇気づけており、校歌も手がけている。